

資料3-7

事業所評価（企業・福祉事業所）

		企業			福祉事業所	
		し既に い獲得 る得 能力	ほ身卒 しに業 い付ま 能けで 力てに	る必雇 能要 力と 思継 わ続 れに	し既に い獲得 る得 能力	ほ身卒 しに業 い付ま 能けで 力てに
依頼事業所数		5			35	
回収事業所数		3			20	
回収率		60.0%			57.1%	
回答の 選択肢	挨拶・返事	3	0	2	16	4
	社会のルール	1	0	1	2	9
	仕事への意欲	2	1	2	7	7
	指示理解	1	0	1	5	4
	コミュニケーション能力	1	1	0	3	6
	作業の巧緻性	0	0	0	0	0
	自力通勤	1	0	0	5	2
	体力	0	0	1	6	1
	責任感	0	1	0	1	3
	協調性	0	2	2	0	5
	その他	0	1	0	0	0

回答の傾向から分析する今後の課題

【挨拶・返事】

「既に獲得している能力」としての回答が多いが、「卒業までに身に付けてほしい能力」や「雇用継続に必要なと思われる能力」としてもあげられている。引き続き、児童・生徒への「挨拶・返事」について教職員全体で改めて共通理解し、取り組んでいく。

【社会のルール】

「卒業までに身に付けてほしい能力」に多く回答がある。社会生活を送る中でのルールの理解を学校において取り上げて指導を行っていく必要がある。

【仕事への意欲】

「既に獲得している能力」として回答されているとともに、「卒業までに身に付けてほしい能力」や「雇用継続に必要な能力」としてもあげられている。作業学習や職業などの時間において、働く意義について考え理解していけるような学習に取り組んでいけるといい。

【コミュニケーション能力】

「分からないときや困ったときなどに発信できる力があると、実習時に多くのことが身に付くように感じる」との回答があった。高等部に進学する前から段階的にコミュニケーションの力を育成する学習に引き続き取り組んでいけるといい。

【協調性】

「自分と違う考え方にも耳を傾けることができれば可能性が広がると感じた」という回答があった。「卒業までに身に付けてほしい能力」にも回答があるように、集団の中で活動するうえでは、相手の話を聞き、それに応えていくことの重要性が分析できる。学校の中でこれらの力を身に付けていけるよう、学習において「対話的な学び」を一層深めていけるようにする。

【その他】

企業様から、「実習生徒の評価も高く現状のまま意欲をもって入社してほしい」との御意見があり、学校での学習の成果を実習など社会の中で発揮できていることが考えられる。